

後田渡江=明日(十日)大正十一年一月五日... (Vertical text on the far right edge)

後田渡江=明日(十日)大正十一年一月五日... (Vertical text on the right side)

労働者諸君!!! 兄弟姉妹に告ぐ!!!

當局の魔の手が遂に吾等の上にも向ける時が来た。経済界の不況の爲めに、遂に吾等が虐げられる者の犠牲に供する時が来た。昨年十二月廿一日吾等兄弟が相互に扶助し合ひ且つ團結の力に依つて地位の向上を計らんとする労働組合(工親會)の幹部及び職員十三名に對し突如專賣局は職首を告げたのだ。然もそれは非公式の口頭を以ての通告でありその理由は『行政整理の爲めに』と言ふのだ。

此の奇怪なる通告に對して職首者は黙して居る譯に行かない。直ちに斯く反問した。『行政整理は聞えるが、特別に我々十三名を選んだ理由は如何。吾等は業務に勤勉である。老朽淘汰ならば吾等は餘りに若過ぎるぢやないか。他に老人が譯山居るぢやないか。高級者を淘汰するならば吾等は皆低級賃金を支給さるゝ者のみぢやないか』。然るに當局は漸く三名の職首者に對して悪名を附する事が出来た。けれども他の十名に對しては何等答へる事を成し得ないで、理由も公然と發表し得ない職首!之れが不當解雇でなくてはならぬ。

兄弟姉妹よ立て!!

吾等労働者の眼前には常に『失業』と云ふ暗黒な深淵が實に恐ろしい口を開けて、吾等を呑みこまんとして居る。殊に最近経済界の世界的不況の結果は彼方でも、此方でも吾等兄弟がこの深淵へミ群を成して呑まれて行くんだ。諸君は恐ろしいと思つて居ないか。不安を感じて居ないか。然も吾等の働きつゝある首領工場方面は職首がはげしいのだ。今更云ふ迄もない『失業』は吾等の死を意味する。吾等は失業から脱れねばならぬ。兄弟姉妹よ死の淵に突き落さうとする者ミ戦はねばならぬ。御互に團結して是れを防がねばならぬ。他人の問題ぢやない。見て労働階級の虐げられつゝある總ての兄弟姉妹の問題なのだ。吾等は一時も早く此の世の失業を無くせねばならぬ。が今それが出来なければせめては幾分の失業手當を取つて失業中の生活を支へ得るやう計らねばならない先づ此の爲めにお互ひに團結して戦はねばならぬのだ。起て起て共に戦へよ!!

兄弟姉妹よ立て!!

諸君は去る十二月廿五日の大阪時事新報夕刊の記事を如何に讀んだか。それは『近く專賣局は三百人の職工を職首すべし』とあつたのではないか。之れを見た當局は早速翌廿六日の同紙朝刊に製造課長をして此のうわさを取消さしめ、斷然職首者は出さないと言言はしたが、それは吾等が起つて騒ぐ事を恐れたの虚言なのだ。ごまかしに過ぎないのだ。その舌の根のかはかぬ卅一日に早くも十三名の反抗しさうなものを先きに職首したのだ。後の二百八十名が、近く職首される事は火を見るよりも明らかだ。吾等だ。多量の兄弟姉妹が職首されるかも知れないのだ。諸君の失業が、諸君の飢が、今

工親會

起て! 諸君の起つべき時は今